

# サクッ!とわかる 経済学部

経済学部と経営学部のちがいがわかる本

side: 経済学部

# RYUKOKU.

← 経営学部は裏面へ。

# 大学の学部を選ぶとき よくあるギモンが 「経済学部」と「経営学部」のちがい。

「1文字ちがいだし、勉強することも似てるのでは？」

「自分の夢をかなえるためには、どっちを選んだらいいの？」

「そもそも、自分がどっちに興味があるのかわからない」

そんなみなさんのギモンに答えるため

経済学部と経営学部の

代表的な4つの科目をご紹介します。

きっと謎が解けるはず。



# 経済学は、お金もうけのための学問ではありません。

経済学は、『より幸福な社会のあり方』を探る学問です。

みなさんが毎日生活していて感じる「どうして不景気になるの？」

「世界の貧困問題は解決できないの？」といったギモンを、

経済学で考えていくと今まで気づかなかったことを発見でき

毎日のニュース、世界の出来事が身近に感じられ、

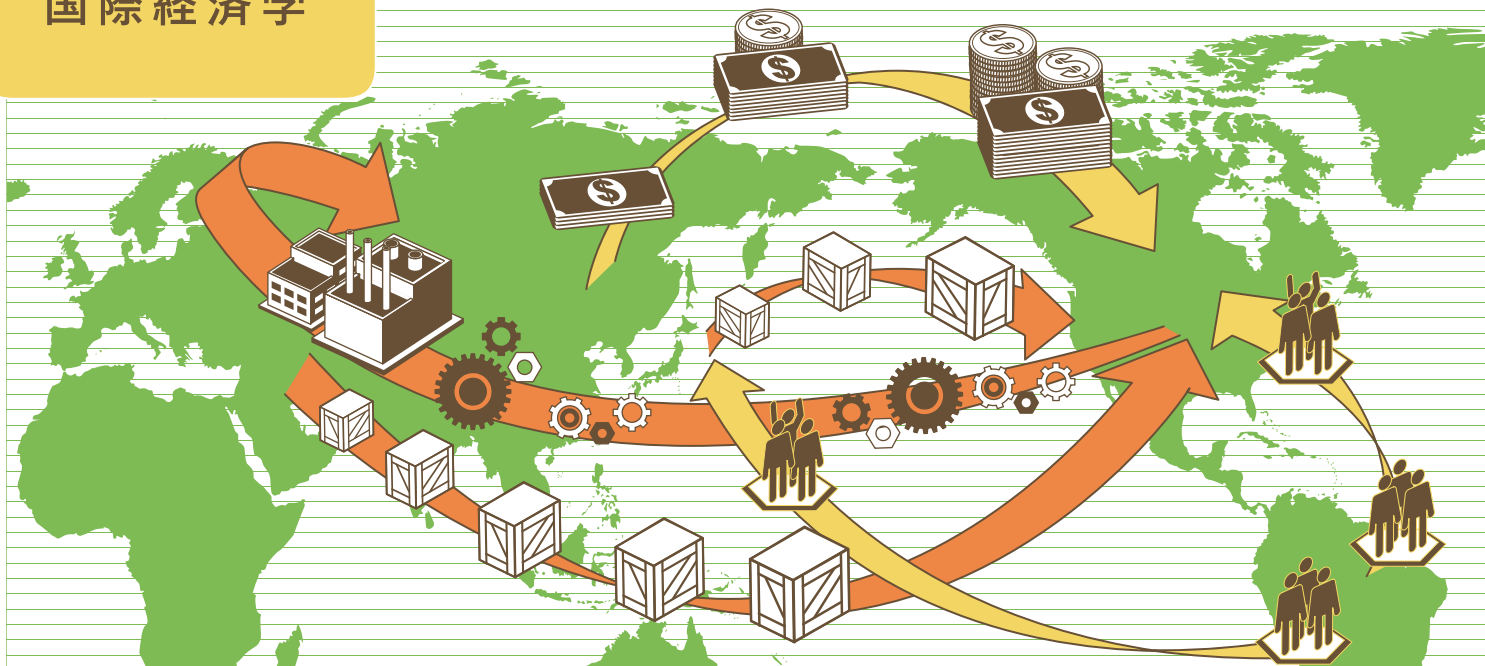
今、自分が何をすべきなのかが見えてきます。



では、経済学部を扉を開けてみましょう。



# 国際経済学



「経済・金融のグローバル化」って  
どういうことですか？



私たちが生きている現代の世界では、商品だけではなく、マネー（資本）、人（労働力）、技術が国境を越えて大規模に移動し、その規模はますます大きくなってきました。

新興国として近年注目される中国やインド、ブラジルなどの経済発展も、そうした変化の結果です。

モノ・マネー・人・技術の国境を越える大規模な移動を「経済・金融のグローバル化」と呼びます。

第2次世界大戦後、1970年代初頭までは、国境を越えたマネーの移動は、

厳しく規制されていて、それにともなって、人や技術の移動も今日よりずっと小さいものでした。

「国境を越えたマネーの移動が急速に拡大するようになったのはなぜか?」「それは、世界と各国の経済にどのような変化をもたらすのか?」「一国で起こった金融危機がなぜ他の諸国にも波及するのか?」

これらの諸問題を事実にもとづいて把握することが国際経済学の大きなテーマです。



「景気が良い・悪い」って  
どういうことですか？





大まかに言うと、国や地域全体の経済活動が活発なときに、「景気が良い(好況)」という言い方をします。経済活動が活発であるとは、みんながたくさんお金を稼いでいる、たくさんのモノやサービスが生産されている、みんなが積極的にモノを買っている、失業している人が少ないというような状況を指します。

この逆が、「景気が悪い(不況)」という状況です。不況の時には、みんなの稼ぎが少ない、モノやサービスの生産が少ない、みんな積極的にお金を使わない、失業者が多く発生する、

ということが起ります。そして、いったん景気が悪くなると、みんなの稼ぎが少なくなる → みんなお金を使わなくなる → モノが売れないから生産が減る → みんなの稼ぎがもっと少なくなる…という悪循環が起こってしまいます。

マクロ経済学は、「何が原因で不況が発生するのだろう?」、あるいは、「不況が発生してしまったときに、政府は何をすればよいのだろう?」といったギモンに答えてくれます。



# ミクロ経済学

経済学はお金のことを  
学ぶのですか？

空港発着枠割当

学校選択方式

腎移植マッチング制度

経済学といえば、多くの人はお金をイメージするため、お金で解決できない問題と経済学はあまり関係がないと思うかもしれません。しかし、経済学は、お金で解決できない問題をも扱うとても柔軟な学問です。

たとえば、腎移植の問題では、お金で解決する方法(臓器売買)は違法なので使うことができません。そこで、最近、経済学者が、お金を使うことなく、多くの人の命を救える腎移植マッチング制度を考案しました。この制度は、アメリカのある地域で実施され、



大きな成功をおさめています。

公立学校の学校選択制にも活かされています。アメリカの別の地域では、経済学者の提案する方式に変更した結果、希望する学校に行けない生徒の数を大幅に減らすことに成功しました。

日本でも最近、研修医の配属先決定方法に経済学の成果が活かされています。

このように、問題が山積している様々な分野で、経済学が活躍しています。

経済学は、これから若い人が活躍できる魅力的な学問です。

経済学で  
貧困をなくすことは  
できますか？





# Voice from graduates

## 経済学部OB・OG

### 島田 周さん

朝日新聞社 記者  
経済学部 国際経済学科 国際関係コース  
2010年度卒業

現在、新聞記者として事件や事故を追いかけて、埼玉の街を走り回る日々。記事がうまく書けずに怒られたり、自分の無力さに落ちこんだことも限りなくあります。でも約100文字の記事に、人々の人生や喜怒哀楽を盛りこむ可能性や責任感をかみ締めています。

大学では、特派員として各国で活躍されてきた西倉一喜先生(法学部教授)に鍛えていただきました。「一人の人間として、取材相手から信用される人間になりなさい。愚直でまっすぐなままの君でいてほしい」という恩師の言葉をいつも胸に刻み、仕事に打ち込んでいます。

厳しくて温かい先生や、高めあえる仲間恵まれ、大学時代は充実した4年間でした。みなさんにも良い出会いがありますように！

ジャーナリストの大先輩である恩師の言葉は宝物です。



経済学を学んだことは今の仕事の大切なベース。

### 西原 英里奈さん

三菱UFJ信託銀行  
経済学部 現代経済学科  
2008年度卒業

信託銀行の窓口でお客様の資産相談にお応えしています。お客様の人生に深く関わる運用プランをつくるので責任は重大ですが、喜びや想いを分かちあえる魅力もあります。

大学での勉強を思い出すことは、ほぼ毎日。環境問題や国際情勢、年金問題、少子高齢化など世の中の動きによって、お客様の資産価値は上がりたり目減りしたりします。経済学部では金融、家計、企業などの経済活動とお金の流れとの関連を学びましたが、すべて現在の業務になくてはならない知識。それがなければベストな提案はできないからです。

大学時代は試行錯誤しながら、自分を成長させる期間。ぜひ積極的に、いろいろなことに挑戦してください！